特集号の発刊にあたって

白石典義先生が，2020年夏に永眠された。白石先生に初めてお会いしたのは，1989年の夏の日だった。当時池袋キャンパス2号館2階にあった社会学部長室での，立教大学社会学部産業関係学科の講師としての採用面接のときであった。幸い，採用となり，1990年4月に立教大学に着任することとなり，それ以来30年を超す長い間，同僚として過ごすことができた。着任後から，専門も近いこともあり，様々な面でお世話になった。着任前まで学生であった自分にとって，複数の大学での経験をお持ちで，比較的年齢の近い白石先生は，立教大学で若手教員としてどう働くかについての範であった。90年代は，立教大学の大変革がスタートした時期であったかと思う。その当時から，白石先生は，立教大学のことを愛し，いかに良くしていくのかを，立教のOBとして，誇りをもって取り組んでおられたように思う。貢献は多岐に及ぶが，集大成のひとつが，2006年に設立された経営学部である。経営学部をつくることが，立教大学発展につながるという強い信念がそこにあった。白石先生から学部長を引き継ぐ際，さらにはその後も含め，指導を仰ぐとともに背中を追い続けてきた。今回の特集号は，その白石先生の功績をたたえることに加え，白石先生が抱き続けた思いを我々が再確認し，今後の進むべき道を探るためのものである。

今回の特集を組むにあたり尽力された方々に感謝申し上げるとともに，この特集号で示された白石先生の立教への愛を我々も引き継いでいくことをここに宣言したい。

2021年春

立教大学経営学部長　山口和範